

2018年度共同研究中間報告

『北欧を語る会』講演録

2018年度特別研究助成費北欧プロジェクトチーム

経済経営学部

研究代表者 大 森 一 宏
共同研究者 明 石 真 和
共同研究者 伊 藤 雅 道
共同研究者 佐 川 和 彦
共同研究者 野 田 裕 康
共同研究者 前 田 悦 子
共同研究者 増 田 珠 子

はじめに

2018年度駿河台大学特別研究「日本と北欧諸国における社会経済文化的側面の総合的比較研究」（研究代表：大森一宏）を受けて、2019年2月9日に駿河台大学にて『北欧を語る会』を開催した。当日は北欧出身者2名（駿河台大学大学院研究生のヤニカ・バッハマン氏 [エストニア]、落語家の三遊亭じゅうべえ氏 [スウェーデン]）をお招きして、北欧文化について市民の方も交えて、トーク形式でさまざまに語っていただいた。

本稿は、その時の講演録をできるだけありのままに掲載（一部カットあり）したものである。2月9日は大雪の予想で来場者も少なかったが、この講演録により、『北欧を語る会』当日の熱気溢れるトークを感じていただければ幸いである。

第1部『北欧を語る』（聞き手：明石真和）

イントロダクション

明石：今、実は流れているのがエストニアの音楽なんです。だけど、実際にはあんまりこういうのは歌ってないみたいです。

ヤニカ：歌ってますけど、でもエストニア人はもっとこういう穏やかな音楽が普通です。

明石：これは穏やかじゃない？ 十分穏やかな。

ヤニカ：ゆっくり。

明石：ゆっくり過ぎる（笑）。はい、ありがとうございます。

少し開始時間を過ぎましたけれども、雪ということでこのような状況です。今回の北欧を語る会を始めたいと思います。大森先生、ごあいさつをお願いします。

大森：今回の北欧を語る会の主催と言いますか、北欧に関する研究会をやっております。その代表を務めています大森と申します。今日は雪という、しかも昨日のニュースだと大変な雪になるというような話で、そんな中お集まりいただきましてどうもありがとうございます。

今回の北欧を語る会というのは、もともとは大学、飯能のほうにメッツァができたりとか、ムーミンのパークでしょうか、ああいうものができるということになり、地域の中で地域に根ざして研究や教育を行う大学であるということから、私たちも北欧に関してもう少し知ろうじゃないか、何か勉強してみようじゃないかということで始めた研究会プロジェクトです。そうは言いますが、私も含めて、北欧とかフィンランドということに関してあまり知識がないわけです。それで、まずは一体北欧はどこなところなんだろうということから楽しく学んでみたらいいんじゃないだろうかというふうに考えて、こういう企画を立てました。なので、今日は市民の皆さんや学生の皆さんと一緒に、楽しく北欧について学んでみようというのが企画ですので、肩の力を抜いて、ゆっくりと楽しみながら北欧のことを勉強していただけたらと思います。

そういうことで、少し長い時間になりますけれども、この後ゆっくりとお付き合いを願えればと思います。どうかよろしく願いいたします。

（拍手）

明石：ありがとうございます。自己紹介が遅れて申し訳ございません。私は今日、進行役を務めさせていただく経済経営学部の明石真和と申します。よろしく願いいたします。

今、大森先生の話にありましたように、メツツアができるということで、本当はフィンランドにまつわる方もお呼びしたかったんですけども、実は関係者が明日からフィンランド出張ということで、日程調整ができませんでした。今回はエストニア、そしてスウェーデンのお客さまということでお願いしたいと思います。それで、まず開口一番、この方のお話から、ビデオメッセージからどうぞ。

第1部『北欧を語る』（聞き手：明石真和）

フィンランドの印象（兼高かおる氏）

明石：日本とフィンランドについて、当時のまだ日本人があまり行かなかったころのフィンランドについての印象を、大ざっぱな印象で結構なんですけれども、聞かせていただければと思います。

兼高：初めて行ったのは1962年ぐらいです。そのころというのは、もう世界中の人がみんないい時代でございまして、フィンランドの方もとてもいい方でした。いい方で、代表的だったのが、私どもはフィンランドといえはサウナという話がありまして、そしてサウナに行くそのときにバスで行こうと思ひましてバスのところにいまして、サウナと言っても皆さんよそ者ですから分からない。そのときは、バスのところにいたんです。そうしましたら、多分私どものガイドの知り合いだったと思うんですが、ちょう



写真1（兼高かおる氏へのインタビュー1999年3月収録）

ど自転車に来て、何か二言三言話をしているうちに、自分のうちのサウナにどうぞということになりました。それで彼は自転車、私たちはバスで。その前に彼はすっ飛んでいって帰って、私たちのために暖かい上着を持って来てくれて、私たちにそれをくれて、自分は自転車で。それで湖のほとりで会いましたら、自分のボートが湖のほとりに置いてありまして、エンジンも付いていて、泥棒もないというのにすごいなと思いました。そして、その船に乗って彼の別荘のサウナのところにきました。そしてサウナで一生懸命にその人たちが火を起こしてくれて、サウナの石を熱くして、それから自分はビールとかソーセージとかを用意をしてくれて、それを私たちにくださったんです。なにせそういうのを全部、本当に行きずりみたいな感じだったんですけども、そんなに親切でした。こういう親切は、今世界中どこを探してもないと思うんです。当時でも、多くは親切でしたけれども、やはりずば抜けて人を信じるといふか、自分たちの喜びを人に分け与えるという、素晴らしい人間らしい人間にお目にかかりました。

エストニア紹介トーク（ヤニカ・バッハマン氏）

明石：今、兼高さんのお話にありましたように、すごく良い人たちばかりだということで、今回はその代表的なお二人、どうぞ。ヤニカ・バッハマンさん。盛大な拍手でお迎えください。どうぞ。後でじゅうべえさんを紹介します。

本来はバッハマンさんとお呼びしなくちゃいけないんですけども、ヤニカさんということで。それで、今日、ポスターとかチラシで配らせていただいたヤニカさんの経歴で、付け加えておきたいことがございます。ヤニカさんはタリン大学大学院を終えただけでなく、Ph.D（博士号）を取っており、ドクターでいらっしゃいます。じゃあ、ヤニカさんのトークということですけど、何かみんな話をしたいということで、増田先生、それからじゅうべえさんも上がっていただけますか。今はいい？では後でもいいけれども。じゃあ、まず2人で話します。ヤニカさん、自由にどうぞ。僕はいないほうがいいかな。

ヤニカ：自由？ いや、自由というと……。

『北欧を語る会』講演録

明石：われわれのほうから質問をしておいたんです。で、いろいろ作っていただいたので、まずビデオを見せていただいて。

ヤニカ：ビデオから行きましょうか。

(DVDを見る)

明石：エストニアというのは、日本と比べてどのくらいの広さですか。日本と同じくらい？

ヤニカ：そうですね、日本の北海道くらいかな。

明石：北海道くらいの広さの国。そこにさっきのデータでは、人口が130万人ということは日本の100分の1ということ？

ヤニカ：そう。人口は約130万人しかいないので、面積で考えると1平方キロメートルあたりはもう30人しかいないので、日本ですと300人以上。それと、ヨーロッパの中でもヨーロッパの平均よりも4倍少ない人口密度。

明石：その中で、われわれはよくエストニアと聞くとバルト3国というようなイメージを浮かべるんですけど、ラトビアとか、リトアニアとか、エストニアは全く違う国ですよ。

ヤニカ：そうですね。エストニア人はラトビアとリトアニアと全く一致し

北欧諸国の概要

	面積 万km ²	人口 2018 万人	首都	言語	名目 GDP 2017* 百万\$	一人 GDP 2017* \$	実質経済 成長率 2017* %	失業率 2017* %	通貨単位	EU 加盟年	平均 寿命 2016	ピック マック 価格 円換算
デンマーク	4.3	578	コペンハーゲン	デンマーク語	325,556	56,631	1.0	6.2	デンマーク クローネ	1973	80	499
ノルウェー	38.6	526	オスロ	ノルウェー語	398,832	75,389	1.4	4.0	ノルウェー クローネ	非加盟	82	635
スウェーデン	45.0	1,022	ストックホルム	スウェーデン語	535,615	52,925	2.1	6.7	スウェーデン クローナ	1995	82	633
フィンランド	33.8	550	ヘルシンキ	フィンランド語	252,753	45,927	3.0	8.6	ユーロ	1995	81	?
エストニア	4.5	132	タリン	エストニア語	25,973	19,840	4.9	5.8	ユーロ	2004	77	?
ラトビア	6.5	211	リガ	ラトビア語	30,325	15,550	3.8	9.0	ユーロ	2004	74	?
リトアニア	6.5	281	ビリニュス	リトアニア語	47,264	16,731	2.3	7.9	ユーロ	2004	74	?
アイスランド	10.3	35	レイキャビク	アイスランド語	23,000	67,570	5.7	3.0	アイスランド クローナ	非加盟	82	?
日本	38.0	12,632	東京	日本語	4,873,202	38,449	1.7	2.9	円	非加盟	83	390

出所：外務省HP（トップページ>国・地域>地域別インデックス（欧州））その他より簡易作成

*：国により2017年以外のデータもある

ていないと考えているので、言語とかもそうだけれどもフィンランド語に非常に似ていて、文化的にもフィンランドに近いから、やっぱり北欧グループとして自分は考えています。

明石：その場合、フィンランドとエストニアの関係はどうか。今回、ムーミンのメツァで、飯能としてはキーワードが「フィンランド」で盛り上がっているけれども、エストニアから見たフィンランドはどんな感じ？ 悪口でもいいですよ。

ヤニカ：悪口は言わないですよ。なんていうか、もちろん隣の国だから、冗談しながらフィンランドのことを見ていると、フィンランド人も同じくエストニア人に対していろんなことを。

明石：ということは、日本の関東と関西みたいな、大阪人と東京人がからかっているみたいな部分があるという感じかな。

ヤニカ：そんな感じが多いね。

明石：じゃあ、北欧の国の中では、特にエストニアはフィンランドに対して親近感というか近い感じがあるのかな。

ヤニカ：そうですね。最も近いと考えています。

明石：例えば、今日はもう一人のお客さまはスウェーデンからいらっしゃっていますが、エストニアから見たスウェーデンはどう？

ヤニカ：エストニア人は、スウェーデンは文化的に少し違うと思っているんです。

明石：そうですね。じゃあ、北欧と言ってもひとくりにしないほうがいいということですね。

ヤニカ：そうですね。逆にフィンランドもやっぱりスウェーデンと少し違う。

明石：じゃあ、またスウェーデンから見たフィンランドも、後で聞かせていただくとして。例えば、言葉なんて全然違うとおっしゃっていましたね。

ヤニカ：そうですね。エストニア語ですと、こういう……。

明石：どういう発音なの。

ヤニカ：もうそういうのを、英語にない文字が結構多くて、しかもこの文字は「õ」エストニア語にしかない「ウー」と読みます。

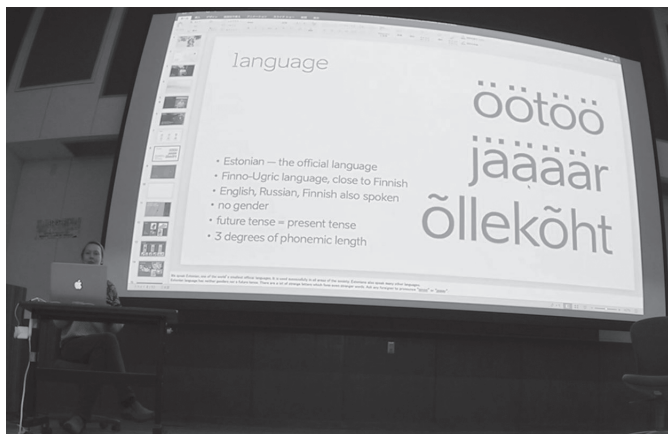


写真2

明石：見たことないです。

ヤニカ：これは全部、例えば普通の言葉なんです。「ウートゥー」夜の仕事。夜の仕事をしている人が「ウートゥー」。それから「ヤーアー」は氷の「ヤー」と……。

明石：アイスだ。

ヤニカ：そうです。アイスの、何で言う？　そこかな。「ウンレクフト」。「クフト」はおなかと、「ウンレ」は、特に男性がビールをいっぱい飲むとおなかが出るんです。これを「ウンレクフト」と呼んでいる（笑）。

明石：ビール腹というやつかな。

ヤニカ：そう。「ウンレクフト」。

明石：私は覚えておかなくちゃいけないですね（笑）。

ヤニカ：そんな感じです。

明石：フィンランド語には近いの？

ヤニカ：そうですね。もう同じ言葉のグループなので、文法の面とか、その面は全部同じ。

明石：じゃあ、せっかくですから、エストニア語で「こんにちは」だけみんなに教えてください。

ヤニカ：エストニア語で「こんにちは」は「テレ」。

明石：皆さん、どうぞ「テレ」。照れないで。

ヤニカ：これは朝と夜と昼とか、いつでも使える言葉です。

明石：じゃあ、これは便利だね。

ヤニカ：覚えておくと便利です。

明石：覚えたほうがいいですね。あとは聞きたいことは何だろうな。エストニアはほら、コンピューター、IT産業とかが盛んという話を伺ったんだけどね。

ヤニカ：そう言われているんですよ。

明石：ええ。どうですか。

ヤニカ：確かに盛んで優秀と思います。Skypeがエストニアから始まったとか、実は裏はエストニアの最初の大統領、レナルト・メリが、まずはITに注目しましょうと言って、最初からITカレッジを創ったのです。ITカレッジを創り、そこからITの勉強とかの教育が大きく増えまして、その面でIT関係の国のeネットやeガバメントね、これは全部いろいろな申請や書類は全部オンラインでできる。投票もオンラインでできる。今、エストニアで言っているのは、3つのことだけオンラインではできない。一つは結婚すること。その後、オンラインでは離婚ができない。あと、不動産を売るとか、そのことはオンラインではできない。その他は全部オンラインでできるらしい。

明石：それは冗談ではなしに、本当にそうなの？

ヤニカ：本当にそうらしい。

明石：例えば、入学試験などでも、Skypeでやってしまうなんてこと？うわさですが。

ヤニカ：私、ちょっとごめんなさい、今はそこまでは分かりません。

明石：で、エストニアということに対して、われわれが抱くイメージはあまりないんです。さっき言ったバルト3国の一つぐらいな話だったんだけど、だいたいフィンランドと近いということでイメージとしては湧くんですけれども、何か有名な方とかそういう人がいたら紹介していただけますか。

ヤニカ：エストニア人の？

明石：例えば、日本だと皆さんご存じの把瑠都（ばると）というお相撲さんだけど、日本では有名だけれどもエストニアではどうなんですか。

ヤニカ：エストニアでは、把瑠都はあまりそんなに有名とは考えていない。知っている人はいると思うんですけども、日本で少し活躍した、日本で相撲をやっていたという感じ。でもエストニア人は世界的に人気とは考えていません。逆に言うと、エストニア人として人気なのは、アルヴォ・ベルト（Arvo Pärt）さん。Composer。

明石：作曲家？

ヤニカ：そう。今まだ生きている人なので、自分の独自のこういう音楽を作っている。

明石：宗教音楽？ クラシックと宗教音楽が混ざっているんですね。

ヤニカ：そうです。ミックスで作っているんですね。あと、今はこの人は日本でも多分知られているんです。NHKの指揮者、パーヴォ・ヤルヴィ（Paavo Järvi）さんです。前は多分ブレーメンの指揮者でした。

明石：ブレーメンの交響楽団？ そうだった？ 覚えていない。

ヤニカ：あの人は人気です。あと、スウェーデンの場合は、アストリッド・リンドグレン（Astrid Lindgren）は人気だと思いました。作家だけれども、あまり知られていないと思うんですけども、イロン・ヴィークランド（Ilona Wikland）は……。

明石：これはエストニアの人？

ヤニカ：エストニア人。でも、エストニア人だけれども、第二次戦争のときにスウェーデンに行った人なので、そこでアストリッド・リンドグレンの本に絵を書いて。

明石：挿絵画家ね。イラストレーターね。

ヤニカ：そう。イラストレーターで、例えばこのわれわれがイメージしている……。

明石：これはアストリッド・リンドグレンというスウェーデンの女流作家で、やかまし村シリーズの挿絵を書いている、例えばこのイロン・ヴィークランドは、第二次大戦のときにスウェーデンに逃げていたということですね。

ヤニカ：そう。イメージしているのは、『屋根の上のカールソン』なんです。カールソンはあの方が絵に創ったイメージなんです。

明石：なるほど。だから、われわれが本で読んだイメージというだけじゃなくて、ヴィークランドさんが書いたイメージでわれわれは捉えているということですね。

ヤニカ：そうですね。

明石：やかまし村。

ヤニカ：他の本もアストリッド・リンドグレンの本も……。

明石：例えば、パーヴォ・ヤルヴィさんは日本で住んでいるわけだから、日本で活動しているわけだから、お会いしたことはありますか。

ヤニカ：あります。

明石：彼はどんな印象ですか。

ヤニカ：もう普通のエストニア人でした（笑）。

明石：普通のエストニア人というのは分かんないんだけども。僕らから見たイメージでは、エストニアの方はみんなヤニカさんみたいなこういうタイプなのかなと思ったら、さっきは違うとおっしゃっていましたよね。だから、写真を少し見せていただいて。

ヤニカ：普通のエストニア人ですと、結構、実は日本人に似ていると思うのです。表面に自分の感情とか……。

明石：感情を表情に表さない。

ヤニカ：そうですね。

明石：能面みたいな、ポーカーフェースというか。

ヤニカ：ポーカーフェース的なタイプ、そうですね。

明石：エストニア人はそういうタイプばかり？

ヤニカ：そういうタイプが多い。

明石：じゃあ、ヤニカさんは例外なんですか（笑）。まあ、いいんですが。

ヤニカ：そうだね。

明石：こんな感じの方が多いわけね。

ヤニカ：日本にも結構そんな感じの人が多と思います。

明石：もともと日本は多いですね。

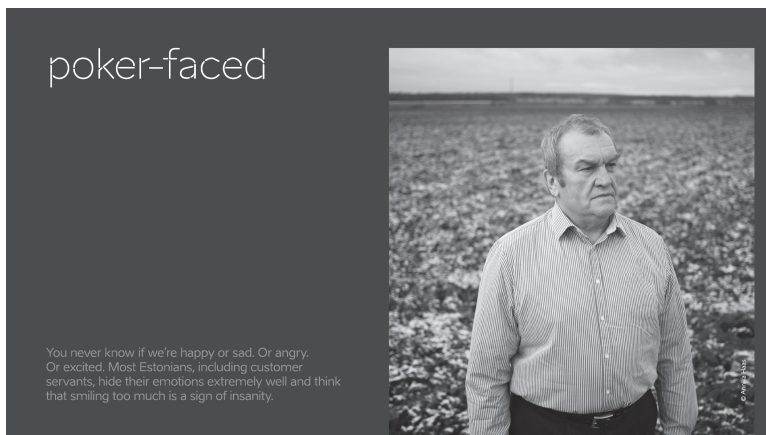


写真3

じゃあ、次に、やはりさっき言ったように、日本の北海道ぐらいの国土に130万人ですと、みんなで働かないとやっていけないじゃないですか。ということは、特に北欧というのは女性の社会進出のパーセンテージが以前から高いですよ。

ヤニカ：そうですね。これは前から高いのと、あともう一つは、一般でも女性の働く考えはありまして、これは多分スウェーデンと似ているんです。北欧の女性は働くのが普通。それは当たり前で、そのために保育園とかそういう施設もちゃんと国が準備してありました。

あと、エストニアは独自で、何年前からでしたか覚えていないんですけども、例えば子どもが生まれるときに1年間育児休暇をもらい、その間は国が普通の前のレベルの給料を毎月払うんです。だから……。

明石：結構税金も高いんじゃないですか。

ヤニカ：高いんですけども、まだスウェーデンのレベルまでいかない。

明石：スウェーデンは高いの？

じゅうべえ：はい。

明石：またそんな話も後でお願いします。

その中でヤニカさんは小さなころから、何という町の出身でしたか、把瑠都関と同じ出身ですか。

ヤニカ：ラクヴェレ。すごく小さい町。

明石：ラクヴェレ。そこで何大学でしたか。タリンとその前に……。

ヤニカ：その前に、南のほうにあるタルト大学。

明石：エストニアは、さすがにそれだけの国土ですから、日本のように大学がたくさんあるというわけではないと思いますけれども、やはりその2つの大学は有名なんですよ。

ヤニカ：一番大きいタルト大学は1632年でしたか、そこからできているので、もうヨーロッパの中でも一つ古い、一番昔からの大学になっています。

明石：タリンは新しいんですか。

ヤニカ：タリンは新しい。ちょっと覚えていない。

明石：比較的ね。

ヤニカ：比較的新しい。

明石：で、先ほど皆さんにお配りした資料の中で写真がありますけれども、あれはタリンなんですよ。

ヤニカ：タリンの街並み。

明石：きれいな街ですね。

ヤニカ：そうです。タリンは写真を持っていないんだけど、一番人気なのはオールドタウンと呼んで……。

明石：オールドタウン。

ヤニカ：これがユネスコ世界遺産に入っているんです。

明石：それはぜひ皆さんもこれからタリンにも出かけて。うちもタリン大学辺りと交流するというのはどうですか。ヤニカさん、もしうちがパートナーになったら、間に入っていただけますか。

ヤニカ：はい。ぜひ。

明石：少なくとも視察に行くとか、あるいはお互いに交流するぐらいでも、いろいろな刺激になると思いますけれども。

ヤニカ：たくさんあると思います。

明石：エストニアについて、だいぶイメージができてきたかなという気がしますが、エストニアの人は、好きなスポーツは何ですか。

ヤニカ：エストニアで考えると、1年の半分は冬だから、冬のスポーツは

スキーとかスケートだから、エストニアですと私もそうでしたけれども、2歳になって歩き始めたころからスケートとスキーは必ず持ってそれをやるのです。もう当たり前前で、成長に合わせて毎回スキーをまた買い換えて、スケートも買い換えてまたやります。

明石：それは普通の日常生活の中で、そういうスポーツが定着しているということですよ。

ヤニカ：そうです。

明石：日本だと、あえてスキー場に行かないとスキーはできないけれども、エストニアでは当たり前。

ヤニカ：本当に前で、スキーを持って大きい公園に行ってそこでスキーをすとか。

明石：学校に通うときも、スキーで行ったりする？

ヤニカ：学校にはスキーで行かないんですが、でも体育の授業としてはスキーが入っているんです。

明石：環境があるからそれはそうだよ。今、1年の半分は冬とっていいわけですか。

ヤニカ：ほとんどそうだと思います。

明石：今日みたいな天候は冬に入らない？

ヤニカ：もう冬前の段階だと思います。

明石：雪だ雪だと言っていたけれども、こんなのは別に普通だと先ほど言って。

ヤニカ：そうです。

明石：逆に言えば夏が短いから、すごく夏が楽しみということはあるんじゃないですか。

ヤニカ：そうです。エストニアの場合、冬と夏の違いは非常に激しいです。もう日の長さも全く違う。例えば夏の場合、朝4時から明るい。太陽は……。

明石：4時に太陽がサンライズ。サンセットが、もう夜中の11時ごろですね。

ヤニカ：そう。だから、11時まで明るい。

明石：白夜。ハクヤとも言いますけれども。時間が長い……。

ヤニカ：これは夏。夏の気温は……。

明石：スウェーデンはもっと北だから、もっと長いでしょう。

じゅうべえ：結構似ています。

明石：似ていますか。ごめんなさいね、中断して。すみません。

ヤニカ：気温は、夏でも平均で25度ぐらいで、ときどき35度に行くとうれしい日もある。

明石：日本の夏で35度はうれしい？

ヤニカ：私はうれしい。私は暖かいのが好き。

明石：そうですか。

ヤニカ：ときどき、日本みたいに7月からもうずっと毎日35度で明るい太陽が出ているのは、エストニアの場合はそれがないので、雨の日が多いとか、年によって夏の様子も変わってくるんだけれども、例えば冗談としては1回1日すごく明るい太陽が暖かい日で「昨日は夏でした」と言っていると、その後また寒くなるから（笑）。

明石：だよ。例えば逆に冬はどのぐらい暗いんですか。

ヤニカ：冬は、朝8時半から太陽が見えてきています。夜は……。

明石：4時半には暗くなっちゃうということ。

ヤニカ：その面で、またエストニアですと島があるんですが、島まで冬ですとアイスロード、氷の道がいくんです。

明石：海が凍っちゃうということ。

ヤニカ：そう、海が凍って、そこで氷の道でその島まで行ける。これはもうヨーロッパの中で一番長いと言っているんだけれども。

明石：つまり、夏はそこは海があり船で行かなくちゃいけないけれども、冬になると車で行けるわけですね。

ヤニカ：そう。

明石：それはすごい。

ヤニカ：気温も、冬ですと一般では夜はマイナス10度ぐらいで、昼ごろはマイナス5度とかだけれども、お昼もマイナス10度を超えてマイナス20度の冬もあります。

明石：それはきついよね。で、フィンランドの人から聞いた話なんですけど、

ただ寒いだけならば耐えられる。ただ、風がちょっとでも吹くともうだめと。

ヤニカ：確かにそう。

明石：零度でも風が吹いたらもう凍えちゃうけれども、ただ単にマイナス20度ぐらいならば耐えられると言うんだよ。

ヤニカ：そう、エストニアもマイナス20度の場合だけど、周りが海だからそこまでは寒いとは感じない。逆に言うと、私も例えばアメリカにいたときに、気温はマイナス5度でしたがマイナス20度を感じたんです。だから感じが違う。

明石：そんな中で、じゃあどのようなものをエストニアの人が食べているんだろうというのを教えてもらえますか。

ヤニカ：エストニアの食べ物ね。

明石：聞きたい。

ヤニカ：日本人の食べ物に関していつも詳しいんだから、エストニアですと、3種類がメインと呼んで、パンとジャガイモと乳製品です。パンと言っても、パンはもうエストニア人から見るともう特別な世界で3つの種類があり、1つは黒いパンというので、ライ麦でできているパン。2つ目は、真ん中の大麦からできている。そのあと白いパンというので小麦粉からできている。これは大きく3種類だけれども、その間もいっぱいありま

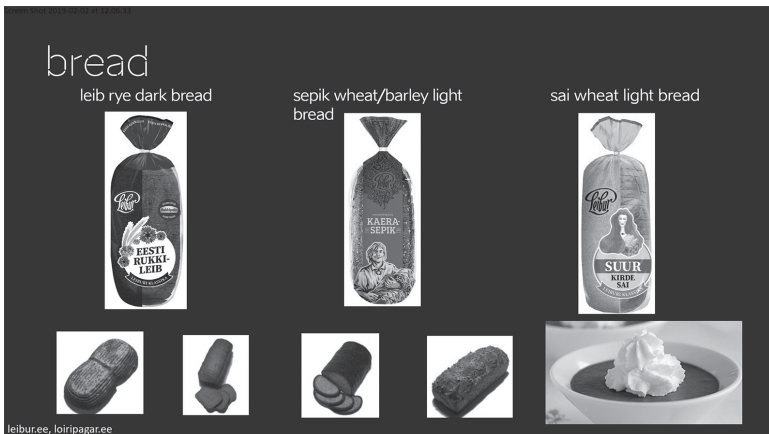


写真4

す。さらにライ麦からいろいろな種類もできているし、パンは特に黒いパンは必ず毎回出るんです。朝ご飯にも出るし、昼ご飯も出るし、夕食にも出る。レストランに行っても必ず黒いパンが出るんです。

明石：日本で言うお米ということですね。

ヤニカ：だけど、これは別に注文しなくても出るんです。注文しなくても付いてくる。当たり前のこと、パンですとパンから作っているスープみたいな料理も、残りもので作っているんです。

明石：そういうのも日常？

ヤニカ：これはパンが残るとごみに必ずしないので、なんとか別の料理に変化する。

あと、ジャガイモなんですね。ジャガイモは、またいくつかの種類があるんだけど、一般でゆでて食べるんです。これは日本で言うと米が似ている感じです。

明石：こちらが米かな。

ヤニカ：そう、米と似ている。私も一番最初に日本に来たときに、旦那は日本人で夕食に一回、じゃあ今回はエストニア風にジャガイモとハンバーグとかなんとかを作って、旦那が帰ってきて「ご飯はどこ？」「今日のご飯はない。今日はジャガイモだよ」と言ったんだけど、旦那は「いや、ジャガイモはただの野菜だよ」と。エストニア人から見ると、そんなに言ったらもうジャガイモ絶対に駄目。

明石：ということは、ジャガイモがあり、ハンバーグがあり、ご飯があると、それは少し多過ぎるんだね。

ヤニカ：そう。もうご飯はいらない。ジャガイモがメイン。逆に言うと、ジャガイモがあればなんとなかなる。例えば、新ジャガイモでしたら、もうエストニア人はそのままゆでて、バターと塩を振って食べるんです。もうこれはご飯。あと、私もそうでしたけれども、大学のときに大学生はお金がないじゃないですか。もうフライパンで単純にジャガイモを焼いてご飯だよ。

明石：チャーハンですよ。

ヤニカ：日本人から見るとチャーハン（笑）。それがジャガイモがすごく

大事。

明石：エストニアではジャガイモが大事。

ヤニカ：余ったジャガイモからいろんな種類のパリエーションも作っている。

あと牛乳からできている製品。これが日本に来て一番困っていた。日本はもう乳製品は種類が少ないんです。

明石：日本の種類が少ない？

ヤニカ：今はでき始めて増えているんだけど、10年前を考えるとあまりなかったじゃないですか。例えば飲み物として見ると、牛乳だけではなくて、その後ケフィア。

明石：ケフィアとは何？

ヤニカ：これは何て言おう。ケフィアは家で作って見たんだけど、基本的に臭くなっている牛乳という感じ。

明石：腐った牛乳、酸っぱい感じ？

ヤニカ：そう。臭くなっている牛乳という感じで、けどこの3つを普通に飲むんです。同じく食事のときに必ず牛乳かケフィアかペットツとかを飲む。

明石：この3つのどれかを飲むのね。



写真5

ヤニカ：どれかを飲む。

明石：日本で緑茶を飲むのと一緒の感じね。

ヤニカ：そう。そんな感じかな。今、最近ではこういう飲むヨーグルトとかもいろいろな種類が出ているんだけれども、もう一つエストニア独自のものは、コフピームと言って、日本で言うとかッテージチーズみたいだけれども少し違うんです。

明石：その辺りの微妙なところで分からない。

ヤニカ：ここもいろいろな味付けが違うとかそういう商品もある。また、エストニアで独自なんですけど、エストニアでこういうデザートみたいなものだけれども、これはカッテージチーズから作っている小さい甘いデザートバーという感じで。これは冷蔵庫が必要だから、日本に持って来られないんです。でもここもいろいろなチョコレートとか何かを周りにあって。

明石：この中で、ヤニカさんはどれが好きなの。

ヤニカ：これは一般でいいんです。何も入っていないので、チョコレートとか。

明石：牛乳ではやっぱり酸っぱいやつが好き？ それとも普通の牛乳？

ヤニカ：私はこれ、ケフィア。

明石：やっぱり腐った酸っぱいやつね。

ヤニカ：そう、腐った牛乳（笑）。

明石：ありがとうございます。

ヤニカ：あともう一つ、クリスマスのときに何を食べているか。これはもう少し違うんです。ドイツ人はザワークラウトだと思うんだけれども、エストニア人はザワークラウトをさらに1時間煮込んで作っているんです。

明石：ザワークラウトというのは、酸っぱいキャベツです。キャベツを酸っぱくしてそれをさらに煮込むわけ？

ヤニカ：そう、さらに1時間煮込んで食べるんですよ。

明石：酸っぱいでしょう。どんな味？

ヤニカ：そう。でも、ちょっと砂糖も追加して、味を追加してちょうどいい。

明石：砂糖も入れて。

ヤニカ：その後、クリスマスのときに血で作っているソーセージ。

明石：ブルトヴルストね。

ヤニカ：そう、ブルトヴルスト。これは少しドイツと違う味だけれども。

明石：血で作ったソーセージ。

ヤニカ：これはまたお肉のゼリー。これもエストニア独自と思うんだけど、クリスマスのときに食べる。餅も当たり前で。

明石：これはおいしそう。

ヤニカ：ジャガイモと肉。ここにもキャベツが出ているよ。

明石：さっきのザワークラウトのエストニア版。

ヤニカ：これは、パン風だけれども……こういう、何て言うの。

明石：パンケーキ？

ヤニカ：パンケーキというか、間にいろんなシナモンとかレーズンとか一緒に入れている。

明石：こういうのは日本語で何て言うんですか。

ヤニカ：日本語でないんです。見たことがない。

明石：食べてみたい。

ヤニカ：これが一般です。

明石：ありがとうございます。

何かここで少し皆さま方から質問があったら受けてみましょう。お話しけちゃっていいかな。はい。

じゃあ、僕のほうで聞きたいのは、ヤニカさんは日本に来て何年？

ヤニカ：そうだね。一番最初は2003年だけれども、その後1年半ぐらい旦那の転勤でドイツに住んでいました。その後また帰ってきて。

明石：15年ぐらいですかね。だいたいね。

ヤニカ：そのぐらい知っているかな。

明石：そのときに、エストニア人ということじゃなくていいですから、ヤニカさんから見た日本人で、なんか変だよねというところはある？

ヤニカ：変というよりは、私も結構、他の人の考えを勉強するのは好きなんです。だから、そういう考え方もあるとか、そういうやり方もあるとかと。

明石：例えば、僕のドイツ人の先生が、日本に来てなんか目に付いたとこ

ろがある？と言ったら、タクシーの運転手さんが白い手袋をしているのが、すごく印象的だと。今は必ずしもそうじゃないんだらうけれども、そういうささいなことなことでいいけれども少し意外だということが結構あるのかなと思って。例えば日本の食事はすぐに慣れましたか。

ヤニカ：日本の食事は、何て言えばいいかな。いろいろ少し変な味でしたけれども、でもその中でもまたエストニア風のコンビネーションに合っている、例えば今は自分でライ麦パンを作っているんです。そこに、普通のエストニア人ですとバターを塗るんだけど、私はまたそこにネギ味噌があるじゃないですか。ネギ味噌を塗っているんです。

明石：おいしい？

ヤニカ：それがおいしい。

明石：やっぱり、いろんな食べ方がね。

ヤニカ：だから、そういうバリエーションを自分で作っているんですよね。

明石：それはあるな。例えば、質問してくれと聞かれているんですが、くさやの干物はどうですかという。

ヤニカ：干物？

明石：干物のくさやという、臭い干物です。食べてご存じないと思うんだけど、じゃあ納豆は？

ヤニカ：納豆は食べて問題ないです。だけど、一般には食べないですね。

明石：一般には食べない。だけど、問題はない？

ヤニカ：問題はない。

明石：あとは何か日本の食べ物で苦手というものはありますか。

ヤニカ：ウニとかは、そういう。

明石：海産物はあまり得意じゃない？

ヤニカ：ウニと、あとは結構日本人はネバネバのものが好きね。私はそこはちょっと。

明石：そこは駄目なんですか。

ヤニカ：はい。

明石：ありがとうございます。

あと、せっかくだから、ヤニカさんから皆さんに日本について質問した

いということがあれば。

ヤニカ：日本についてはどうだろう。

明石：想定しない質問を付けちゃった。

ヤニカ：日本について……。今はパッと出ない。

明石：じゃあ、その辺りでもう一回ゲストを呼んで、やっていいですかね。

ヤニカ：はい。

明石：じゅうべえさん、それから増田さん、よろしくお願いします。

第1部『北欧を語る』（聞き手：明石真和、増田珠子）

エストニアとスウェーデン、フィンランド（三遊亭じゅうべえ氏）

スウェーデンからお越しのと言ったら、今日スウェーデンから来たんですかと勘違いされて。あらためてご紹介させていただきます。三遊亭好楽師匠のお弟子さんで、三遊亭じゅうべえさん、よろしくお願いします。

（拍手）増田先生、自己紹介をお願いします。

増田：経済経営学部の増田です。イギリスが専門ですが児童文学が好きで、ムーミンだの、さっきのやかまし村のヴィークランドの挿絵がすごく好きなんです。人に語ったら全然知らなくて。そういう話がいろいろ伺えた



写真6

らしいなと思って、今日はここへ乗せていただきました。よろしくお願ひします。(拍手)

明石：じゅうべえさん、今回、飯能がフィンランドといろいろ近い関係ができてきたので、スウェーデンから見たフィンランドについて教えてください。

じゅうべえ：フィンランドは、やっぱり同じ北欧ではあるにはあるんで、似ているところはいろいろあるんですけども。まず一つとしては、フィンランドはもともとスウェーデンの領土だったという時代もありました。だからというわけではないですが、ですけどもやっぱり、北欧の中でもいろいろ似ているんでしょうけれどもいろいろステレオタイプというのがいろいろありまして。スウェーデン人から見ると、まずノルウェー人はみんなばかでしょう。ノルウェー人がみんなばかというのは、いろいろ冗談とかいうそういうのがあるんですけども。デンマーク人は何を言っているのかが分からないです。こちら辺で喉にジャガイモがくっ付いているような感じで、ワーワーと話しているというステレオタイプで、フィンランド人ですと、やっぱり無口で短気で、何かけんかになったらすぐにナイフを取ってこうやばいという、そういうステレオタイプですが、実際は普通に仲良くできるといわけですけれども。

明石：あえてエストニアについては聞かないようにしますけれども。

じゅうべえ：それほどステレオタイプはないかと思いますが。

ヤニカ：海が間に入っているから。

明石：海があるからね。

ヤニカ：それで距離があるからね。

明石：でも、冬は凍っちゃうんじゃない。

ヤニカ：そこまで行かないからね。よかった(笑)。

じゅうべえ：ですが、いろいろエストニアに遊びに行く人が結構多いような。船で行って、パーティーをして戻るみたいな。

ヤニカ：それで来ているんだよね。夜に乗って、夜中に船でパーティーをして朝に着くんだよね。こんな感じになってね。

じゅうべえ：それがやっぱり一番主なイメージです。

明石：そのとき、タリンというのは、先ほど少しやりましたが、ストックホルムもきれいな町ですよ。

じゅうべえ：それなりに。

明石：さっき、タリンにオールドタウンがあると言ったけれども、ストックホルムにもガムラ・スタンという古い街並みがありますね。

じゅうべえ：はい、あります。

明石：一言紹介してください。紹介しようがないけれども。

じゅうべえ：紹介するとなると、今日は写真とか用意していないので、先ほど見たエストニアとは似ているような感じもあると思うので、ヨーロッパのような昔的な、特にオールドタウンは昔のスウェーデンですから結構狭く、日本ほど狭くはないですが。日本は世界で一番狭い国なんですけれども、やっぱりここも狭く路地もなっているし、何百年前からのビルですから、結構きれいじゃないかなと思うんですけれども。

明石：よく、さっきもエストニアとフィンランドは言葉が少し似てるということがありましたが、スウェーデン語、デンマーク語、ノルウェー語は言葉が似ていますよね。

じゅうべえ：そうですね、スウェーデン語、ノルウェー語とデンマーク語は、8割ぐらいは分かります。

明石：例えば、お互いがそれぞれの言葉を話して、理解できますか。

じゅうべえ：ある程度は、はい。たまには少し面白い違いとかもあるんですけれども。例えば、スウェーデン語にもノルウェー語にも「ローリンキ」という言葉がございますけれども、この「ローリ」というのはスウェーデン語ですと「楽しい」という意味があるんですけれども、ノルウェー語ですと、これは「静かで安全」というか。

明石：違う意味なんですよ。

じゅうべえ：ですので、向こうでは「トーデローリッツ」と言いますと「安心してください」みたいな意味があるんですけれども、スウェーデン語ですと「楽しくやろう」みたいな、少し面白い違いがあるんですけれども。でも大抵は話を通じます。それに比べると、フィンランド語はもう一言も分かりません。

明石：そうですね。フィンランドは昔、さっきおっしゃってくださったように、スウェーデンに占領されていたとか一領土だったから、今でもフィンランドの国にはスウェーデン語とフィンランド語で両方書いてありますよね。

じゅうべえ：全員スウェーデン語ができるかどうかということそうでもないらしいですけども、ある程度は、昔からそういう教育もありましたし、やっぱりそういう歴史もあるので、ノルウェー語とスウェーデン語を話せる人が多いらしいです。

明石：ヤニカさんから何かスウェーデンについて聞きたいことはある？別に聞きたくもないかな。

ヤニカ：別に。特に……。

明石：でもやっぱり親近感はあるんじゃないですか。同じ地域みたいなもので。

ヤニカ：そうですね。われわれも結構普通に、さっきの話で言ったことあるし。

明石：今日おいでいただいたときに、もう普通にいきなりお話しされていて。

ヤニカ：あれはヨーロッパの中では当たり前という感じだよな。

明石：それは分かっていますけれども、日本だともう少しこまっちゃう感じで「よろしくお願いします」みたいな感じだけでも、もういきなり。あれは日本語でお話しされていた？

じゅうべえ：英語で話したと思います。

明石：英語で話していた。だから、そんなフランクさがあるというか。例えば増田先生から見て、どうでしょうか、お二人に質問でも。

増田：日本人だと北欧は一塊で北欧のイメージがあるかと思うんです。例えばムーミン。これは『MOE』という絵本なんかを扱った雑誌なんですけれども、毎年ムーミンの特集をこの雑誌はやっていたりするんです。だから、北欧というとムーミンというイメージがあるかと思うんですが、でもさっき少しヤニカさんとお話をしていたら、エストニアではそんなにといい感じなんですよな。



写真7

ヤニカ：ムーミンは逆にスウェーデンの独自のキャラクターで。

じゅうべえ：一応、そのムーミンを書いたトーベ・ヤンソンさんは、スウェーデンとフィンランドのハーフみたいな感じですけども、それでスウェーデンにもやっぱりいろいろ。

増田：少し解説をしますと、フィンランドの人なのですが、スウェーデン語圏の方なので、作品は全部スウェーデン語で書いているということなんです。

ムーミンの関連で、少し質問してよろしいでしょうか。ムーミンのこの本は、中が漫画なんです。これは日本でも翻訳が出ているのでご覧になった方もいると思うんですが、実はロンドンの夕刊紙に掲載されて、結構人気で、ヨーロッパの他の国の新聞にも載ったということです。これはお二人はご存じですか。

じゅうべえ：はい。

増田：これは、やっぱりポピュラーな漫画という感じですか。

じゅうべえ：そうだと思います。今の若い人はどうか分からないですけども。

増田：ムーミンの物語と漫画だと、実は漫画のほうを知っているという人

もいるというのを聞いたことがあるんですが、その辺はいかがなんでしょうか。漫画だけしか知らなくて、ムーミンのお話は読んだことがないというのがありますか。

ヤニカ：エストニアですと、日本の漫画は人気がないんです。だから、漫画の一部は新聞で連載ということはあるんだけど、こういう漫画で読む文化があまりないんです。

増田：そうなんですな。

明石：ムーミンについても、名前はよく知っているけれども、ムーミンは知っているけれども知っているというだけで、内容はそんなに興味を持っていない人が多いということなのかな。

ヤニカ：慣れていけば、テレビでも出るし本とかもあるんですけども、漫画というのは特に。

明石：じゅうべえさんは日本のアニメとか漫画がお好きで日本に来られたといういきさつがあるじゃないですか。むしろムーミンよりもそちらのほうが好き？

じゅうべえ：こういうのも興味がないわけではないですけども。

明石：だけれども、小さいころ、日本では漫画とかアニメは何がお好きでしたか。

じゅうべえ：日本の漫画ですと、やっぱりスウェーデンだけではなく欧米は大抵は昔から漫画とかアニメとかは子ども向きで、子ども向きかこういう新聞で4コマの少し風刺の効いたそういうものどちらかという感じですから。

日本の漫画、アニメですと、いろいろストーリーを描くし、意外と特に日本の漫画の面白いところは、日本の社会の対照的に、逆になっているところが多いんじゃないかなと思います。

明石：逆にというのは？

じゅうべえ：日本はすごく、日本人の皆さまはずっと子どものころから我慢をして、言うことも言わないし、本当に思っていることも言わずに「はい、はい」と命令に従ってというのが結構多いんじゃないかなと思うんですが、それがあから漫画のほうでは結構主人公のほうはまとめると少年

漫画というもので「誰が何と言っても俺は自分がやりたいように生きてやる」みたいなそういうのが結構多くて。それは日本のことを知れば知るほどおかしくはなっていて、面白いと思うんですけども。

明石：そうですね。具体的に、小さいころにどんな日本の漫画に興味を持ちましたか。

じゅうべえ：小さいころはドラゴンボールですか、あとはアニメのスウェーデン語でセーラームーンというのをやっていて、少女漫画ですけども、面白いところはやっぱりありまして。不思議な描写がいろいろあるので、それで面白そうとっていていろいろ見て。それでなんか面白そうで、じゃあ暇だし日本語を少し勉強してみようかなという。どうせ何かやらなくちゃいけないからと、そういう軽い感じでやり始めたんです。

明石：ありがとうございます。

増田：それはじゅうべえさんが独特なのか、それともスウェーデンの方はみんなそういうふうには日本の漫画は知っていたりなさるんですか。

じゅうべえ：最近はいろいろ知っている人も増えてきて、前は少しブームがありまして、みんなが知っているというわけではないと思うんですけども、なんとなく日本の変な文化みたいな。

増田：それはテレビでアニメーションが放送されていたんでしょうか。

じゅうべえ：少しだけあるんですが、やっぱりテレビですと、まだ子ども向けのセーラームーンとかポケットモンスターとかそちらのほうが多くなるので。漫画のほうでは、一時的にいろいろスウェーデン語に翻訳されたものが出されたんですけども、それがどれだけ成功になったのかどうかは、期待されたほどではなく少し停滞しているような気もするんですが。

増田：例えば、日本へいらっやって、テレビのアニメーションがドラマになったり映画になったりしたものの中で、面白いと思われたものはありますか。

じゅうべえ：アニメはいろいろな作品が好きですが。

増田：印象に残ったものはありますか。

じゅうべえ：あまりメジャーじゃないんですけども、『シュタインズ・ゲート』というアニメがありまして、結構マイナーなものですけども、

偶然タイムトラベルの手段を見つけて、それでいろいろトラブルが起こってくる。説明するのが非常に難しいんですが、最初のほうは本当にコメディという感じで、もうおかしいおかしいという感じで、それが途中から意外にドラマチックになり、このようなタイムトラベルによってもともと存在する人が存在しなくなるとか、少し深い話になるんですけども、説明するのが非常に難しいです。

増田：日本の作品ですか。

じゅうべえ：はい。日本の作品です。

増田：ご存じの方はいらっしゃいますか。（何人か挙手。）ちゃんといます。やっぱり学生さんは知っていました。私なんかは全然知らなかったので、日本のことを教えていただいてありがたいという感じですか。ありがとうございます。

明石：じゅうべえさん、先ほどエストニアの料理の話は何ったんですが、スウェーデンの料理は、先ほどのあれから見て少し違いますか。

じゅうべえ：料理ですと結構似ているものが多いと思うんですけども。

明石：ジャガイモが主食というところは同じになりそう？

じゅうべえ：ジャガイモは主食です。パンよりもやっぱりジャガイモですから。

明石：じゅうべえさんは小麦粉アレルギーと聞きましたか。

じゅうべえ：ええ、私はグルテンアレルギーと言いまして、小麦、ライ麦、麦、大麦、これも全く頂けないので、ですので向こうですとジャガイモばかり食べていて、ここですと毎日白いご飯だけ頂きまして。ですけども、やっぱり……。

明石：学生食堂の食事が何か、みんなそれが入っていて駄目だったと、申し訳ないことに。

じゅうべえ：とんでもないです。

明石：例えば納豆とか。

じゅうべえ：納豆は普通に好きです。

明石：大丈夫？

じゅうべえ：はい。

明石：くさはご存じ？ 干物。

じゅうべえ：くさはまだ頂く機会がないんですけれども。

明石：じゃあ、ぜひチャレンジはして。

じゅうべえ：はい、チャレンジしてみたいと思います。

明石：試すだけ。今日はぜひ聞いてくれというスタッフがいたものだから。

じゃあ、前半はこんなものですか。何か皆さまの中から質問があれば、どうぞ。

会場質問者A：私ではなくて、娘が7年くらい前にヨーロッパを旅行したときに、エストニアから船でフィンランドへ渡ったと言って、そのときのお土産話が、全てのをエストニアで買ってくればよかったというくらい、フィンランドの物価の高さにびっくりしたそうです。確かに、ヨーロッパに少し住んでいても、イギリスと北欧はとにかく物価が高い。だから、なかなか家族5人で北欧のほうへ旅行ができなかったんですけれども、実際にエストニアに住んでいらして、フィンランドとの物価の差というのはどのくらいお感じになりますか。

ヤニカ：ありがとうございます。今、もう10年以上エストニアで住んでいないんです。今の差が分からないんですが、ただ、確かに税金の差もあるんです。消費税の差もあり、さっきの紙でも一人当たりのGDPの差もあるんですけども、値段は多分エストニアのほうがどのくらい安いかは分からない。ただ、フィンランド人が結構船でエストニアに行き、アルコールは特にいっぱい持ち帰っているんです。フィンランドに買って持ち帰っているんです。そういうことはあります。だから、どのくらいは明確には言えないので、すみません、ありがとうございます。

明石：何か他にございますか。よろしいですか。

じゃあ、前半はこのくらいで終わりにいたしまして、後半はじゅうべえさんの落語ということで、仲入りというやつですね（笑）。じゃあ、何分から始めよう。40分ぐらいですか。2時40分から第二部落語で、じゅうべえさん、20分ぐらいかな。30分まではいかないと思いますけれども、こつてりとよろしく願いいたします。（拍手）

第2部『三遊亭じゅうべえによる落語会』

明石：第二部を始めるに当たり少し解説です。なんだこれはと思われる方がいるかもしれない。しっかりきちんとした方に頼むと寄席文字というのがあるのですが、これは実はミュンヘン大学からの留学生、アンディ・ノルデン君に書いてもらいました。さっきから会場で写真係をしてくれています。しゃれというわけではないんですけど、彼が正月に書き初めをやったんです。それでお習字を習ったというので、じゃあ、じゅうべえさんの名前も書いて……ということ、味のある字です。それから、こちらはテレビ番組で有名な『笑点』のオリジナル座布団です。あるコネで手に入れました。お金はただです。うちの母が手に入れたんだけど、今回特別に貸し出しということです。じゃあ、じゅうべえさん、並べさせていただきます。じゅうべえさんはいつも、寄席でこういう仕事を今なさっているんだけど、今日は僕が前座をします。それではそろそろ第二部を開始いたします。

じゅうべえ：はい、というわけでございますが、これからちょっとだけの間、落語のほうもお付き合いいただければと思っております。



写真8

【落語部分省略】

『たらちね』という一席でございました。どうもありがとうございました。(拍手)

じゅうべえ：少しだけ足がしびれちゃいましたが。どれだけやってもやっぱり正座は慣れないんですが。もう大丈夫ですから。何か。

明石：せっかくだから質問があれば。じゅうべえさんは椅子に座ってください。

じゅうべえ：すみません、ありがとうございます。

どうもありがとうございました。何か質問とかコメントとか。

明石：じゃあ、ありきたりの質問だけれども、落語の世界に飛び込もうと思ったきっかけとか動機を聞かせていただいていい？

じゅうべえ：私はもともと演劇とかそういうのが好きだったんですけども、それで日本に興味があって留学してきたんです。それで中央大学に1年間留学させていただきまして、そこで何かサークルとかをやれたらなと思ひまして、演劇とかが好きだから日本語で演じてみたら面白いんじゃないかなと思ひ、演劇部のほうに入ろうかなと思ひていたんですけども、そこで落語研究会というサークルがあり、これは面白そうだと、なんだかよく分からないですけども、向こうのライブのほうを見させていただいて、これは面白いからじゃあ入ってみよう。それで落語をそこでやらせていただいたんです。これはとにかく面白いですから、このままやっていたいなと思ひ、落語家になるのを決心したんです。

明石：そのとき、三遊亭好楽師匠を選ばれたというのは何かありますか。弟子に入るのに、師匠を選ぶのにいろいろたくさんの方がいらっしやると思ひうんですけども。ましてや普通の落語協会、落語芸術協会じゃない一門ですよ。

じゅうべえ：いろいろ悩んで、いろんな方に相談をして、いろんな方の落語を見て、うちの師匠のはやっぱりとにかく落語のほうからも優しさがあふれてくるので、この方だったらというのが。いろいろやっぱりただうまいというわけでもなく、もちろんうまくないとあれなんですけれども、やっぱり何か人情というのをすごく感じたので、この方ならというなと

なくもう勘でした。

明石：ありがとうございます。何か会場の皆さんのほうからせっかくですから。ヤニカさん、何かない？ いい？

ヤニカ：私の聞きたかったのも最初と同じ質問でしたね。なんでだろうと。

明石：そうですか。じゃあ、何か皆さんのほうから、会場からどんどん、どうでしょうか。

会場質問者B：その落語研究会で一番始めに聞いて感激した落語は何ていう題ですか。

じゅうべえ：演目ですね。最初は『反対車』という落語を見たと思います。最初はよく分からなかったんですけども、だんだん見たらこれは面白いなと思ったので。

会場質問者B：不案内で私も分からないんですが、だいたいどういう内容なんですか。

じゅうべえ：『反対車』ですと、車といっても昔の人力車のほうで、人力車で私もまだ周っていないんですが、なんとなくしか分からないんですけども、向こうに行きたいというのでじゃあいこうという感じで、すごく速くて、でも「ここが違うよ」と、いろんなところを間違っているというギャグの話ですけども。

会場質問者B：どのぐらいの時間の内容なんですか。5分ぐらいとか。

じゅうべえ：10分から15分とかそこら辺で。

会場質問者B：結構長いね。

じゅうべえ：そこも、途中からいろいろジャンプしたりして、いろいろな変なのが出てくるものもありまして。

会場質問者B：そうですか。どうもすみません、ありがとうございます。

明石：『反対車』というのは、気の長いゆっくりした車夫と、せっかちな車夫が出てくる噺です。せっかちな車夫は、あらよあらよと、土管まで飛び越えちゃうというやつですね。何か他にございますか。

会場質問者C：日本語がお上手だと思ったんですけども、日常会話でしゃべる日本語と、落語のときにしゃべる日本語で、何かこういうところを気を付けているよというところがあれば教えていただきたいなと思います。

じゅうべえ：やっぱり、東京のほうですと江戸落語。江戸落語ですと昔の江戸弁という、昔の江戸弁には忠実かどうかというのはまた分からないんですけれども、少し変わって。その風土、昔の江戸っ子というのが短気で早口というイメージがありまして、それプラスしゃべり方としても碎けたような「みたい」ではなく「みてえ」みたいな。こちらのほうをなんとなくそういうイメージもありまして、そういうのをイメージしながら、落語のほうですとこういう感じじゃべっているんですけれども、それでできているかというのいろいろまだまだ難しいんですけれども。ですが、普通の日本語ですと標準語に近づけようとはしています。イメージですかね。

明石：他にございますか。どなたでも。はい、どうぞ。

会場質問者B：ヤニカさんにも、先ほど食事の話がたくさん出てきましたが、じゅうべえさんは日本食で何が一番好きですか。

じゅうべえ：やっぱり刺身ですとか、納豆も結構好きですけれども。あとは簡単な定食で、ご飯があって、焼き魚、野菜とか、漬物で、おみそ汁とかそういうのがシンプルでいいなと思います。

会場質問者B：定食と聞いてなるほどと思いました。そうですか。

じゅうべえ：意外とちゃんとした定食屋は、東京ですともう少なくなっています。もうチェーン店ばかりですから、困っています。

会場質問者B：そうですね。確かに。どうもありがとうございました。

明石：他にございますか。どうぞ。

会場質問者D：ありがとうございます。前にテレビで出ていらっしゃったのを見せていただいたんですけれども、おそばを食べるところをすごく苦労されて、ピーフンで練習しているというところを見て、ああいう落語で仕草をしようとしてこれは難しいというのは、おそばを食べる仕草以外に、他にどんなものがありますか。

じゅうべえ：先ほどもやったんですけれども、たばことか、あそこはいろいろもう何回も教えていただいて、まだ少しちゃんとできていたのかも分からないです。あとは、先ほども最後の『たらちね』という演目で、最後のほうに小商人が出ていまして、天秤棒でイメージという感じで、これもいろいろ厳しく教わっていまして。これを重さがあるように見せて、こ

う後ろもこう持っていますから、これをこういうふうにくるというのを伝えるというのが難しくて。いろいろそこを怒られたことがあります。

会場質問者D：そういうのを練習するときに、天秤棒なんて実際に担がれたことというのはおありですか。

じゅうべえ：いや、ないですね。そこはなんとなく似たようなのをやったことがある、一応ここの重みというのはなんとなく、天秤棒ではできないですけれども、どういう感覚かというのはなんとなく分かりますので。やったことがないものはイメージするしかないんですけれども。

会場質問者D：やったことのないものは、実際にやってみてじゃなくて、そのイメージで全部作っていくんですか。

じゅうべえ：そうですね、やってみてもいいんですけれども、やってみてはいけないというものもあります。例えば昔言われたのは、演劇とかでも、やってみてこれを再現しようというのはそういう考え方もあるんですけれども、じゃあ例えば殺人鬼だったら別に人を殺して芸のためにとかいうわけにもいけませんから、それはイメージしないといけません。

会場質問者D：ありがとうございます。

明石：先ほどの話の最初にあった、スウェーデン、北欧は平等社会というか横社会じゃないですか。落語というのは、日本の中でも特に縦社会、その中でつらさとかそういうのは何か1つ2つエピソードを、よそでは漏らしませんのでここだけの話。

じゅうべえ：じゃあ、どこから始まればいいかぐらいな（笑）。基本的には、特にやっぱり欧米の考え方として、特にスウェーデンもそうですが、全体的にはやっぱり真実が重要で、何があって、誰のせいかな。何か間違いがあれば、例えば向こうですと会社とか学校とかでも何か間違いがあると、そうしたら来て、申し訳ありませんでした。こうなって私はこうやろうとして、それが間違ったのですみませんでした。二度とこういうことをやらないように気を付けます、みたいな感じで。これはまだ日本語ですから日本のニュアンスになるんですけれども、そういう感じで謝っているんですけれども、日本ですと特に落語の世界ですとそういうわけにはいなくて。ただ「申し訳ありませんでした」土下座とかしてもいいんですけれども、

理由とかやっぱり欧米層も理由を教えたいですから。理由は大事ですから、なぜこうなったのか。向こうもただ「すみませんでした」と言ったら、いやそうじゃなくて、なんでこうなったのか、何を考えたのかと、ただ「すみません」と言ったら逆にばかなのかと。きちんと説明しろということになるんですけども、日本ですとそれはもう「私はいかがでしょうかといたら……」「言い訳すんな」と怒られるんです。それはただ「すみませんでした、すみませんでした」と。

特にこの落語の世界は、表というのがどう見えるのか。とにかく和を保つというのが大事ですから、本当に誰が悪いというのはそんなに重要ではなく、それでもたまには他の人の間違いで私のほうが謝らなくてはいけなくて、私が怒られて、「いや私のせいじゃないよ」というのは言えないですから。それはもうやほとされていまして。そういうときは、私のせいじゃないけれども「申し訳ありませんでした」と言うのが。

明石：皆さま方、こんなもんかな。いいですか。

じゅうべえ：そうしたら、先ほどの『たらちね』という話があったんですけども、どうですか、分かりましたでしょうか。

明石：『たらちね』の奥さんというのは、私はずっとおばかじゃないかと思っっているんです。だってなにも、名前を書いてくれと言われたら「チヨ」と書けばいいじゃないですか。あれは全部……。

じゅうべえ：ばかというか、もう……。

明石：いいです。それは話だからいいんですけども（笑）。「チヨ」と書けばそれで間に合うんだよと、すみません、ただそれだけのことで。

じゅうべえ：話ということで。

明石：話の中でね。そこがまた面白さだからね。で、じゅうべえさんは師匠からもう何席ぐらい習ったんですか。

じゅうべえ：今は25席ぐらい。

明石：15席ぐらい？

じゅうべえ：25席ぐらい。

明石：じゃあ、あと24回ぐらい呼べるわけだ（笑）。冗談はともかくとして、何かもういいですか。

会場質問者E：どうもありがとうございました。スウェーデン語で落語はできますか。

じゅうべえ：一応、少しだけ機会があればやってみたくはあるんですけども、スウェーデン語も英語も、いろいろ変えないといけないんですけども、今の話はこのままではできないんですけども。例えばその前の小ばなしとか、先ほどやったとおりの、例えばですと、Hey, What are you doing right now? I'm writing a letter for my brother. What do you say? You can't write a letter, can you? It's fine. My brother can't read it. みたいな、今のは適当に訳したんですけども。そういうふうには、これは英語でも伝わるんじゃないかなと思うので、ものによってはやれるかと思えます。

会場質問者E：本当にますますのご活躍を期待しています。どうもありがとうございます。

明石：じゅうべえさんにもう一度、盛大な拍手をお願いします。

じゅうべえ：ありがとうございます。



写真9

明石：これだけの人数だから、記念写真を撮りましょう。皆さん、上がってください。どうしても嫌だという人はいいですけども。じゅうべえさんとヤニカさんを囲んで。

おわりに

本年3月16日飯能市にムーミンバレーパークがオープンした。北欧諸国と飯能市・駿河台大学では共に森林文化として共通する研究フィールドがある。駿河台大学でも本研究プロジェクトに続き、フィンランド・ヨウツェノ学院との提携を検討し、留学生の受け入れも始まっている。北欧研究に関する今回の中間報告会は、ささやかではあったが、その分会場が一つにまとまっていたように思われた。この講演録から新たな知見を深めて頂ければ幸いである。

写真参照先

写真1：明石真和撮影、写真2～写真9：当日風景及びスライドより
(ヤニカ氏作成資料、エストニア公式HP、その他Annika Haas、<https://www.leibur.ee/>、<http://www.loiripagar.ee/>、<https://worldoftravel-remindme.blogspot.com/2016/08/22kohuke-classic.html> 等より引用)